



今月のデータ

154km

1995年12月27日に東名赤塚PA～名神泰荘PA間で記録された交通渋滞の長さです。これは日本の道路での渋滞最長記録といわれています。



高速道路の安全走行ポイント

高速道路における交通事故の発生状況

		平成19年	平成18年	増減数(人)
高速道路	発生件数(件)	12,674	13,803	-1,129
	死者数(人)	244	262	-18
	負傷者数(人)	21,005	22,007	-1,002
全事故	発生件数(件)	832,454	886,864	-54,410
	死者数(人)	5,744	6,352	-608
	負傷者数(人)	1,034,445	1,098,199	-63,754

平成19年中の高速道路(高速自動車国道および指定自動車専用道路)における交通事故発生件数は、前年と比べてみると、発生件数、死者数、負傷者数はそれぞれ減少しています。

また、高速道路で発生した交通事故件数は全事故の約1.5%にとどまりますが、致死率を比較すると、全事故の約2.1倍も高いことがわかります。

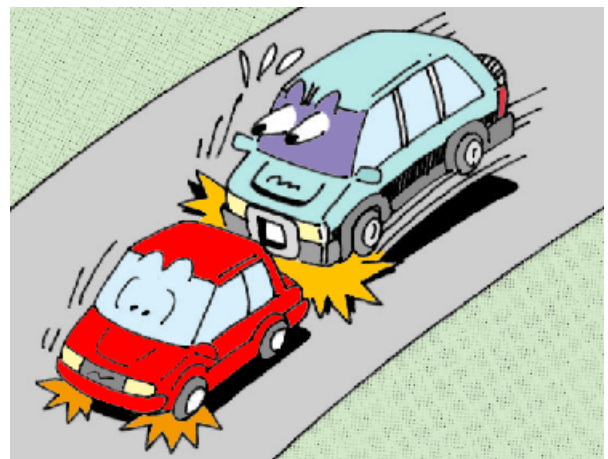
このように、高速道路上での事故は、重大事故に繋がりがやすいことを認識しておきましょう。

事故類型は追突事故が圧倒的に多い

高速道路における交通事故を類型別にみると、約66%(8,371件)は追突事故です。

その内訳をみると、渋滞や故障などが原因で本線上に停止している車両に追突する事故がもっとも多く(4,533件)、ついで、走行車への追突(2,776件)となっています。

また、高速道路上で、最高速度違反が原因で発生した事故について調べてみると、およそ11件に1件は死亡事故にいたっていることがわかりました。



高速道路では、こんな場面で追突事故が起こる

渋滞中



注意が散漫になり、わき見運転に陥りやすくなります。前車との車間距離や速度差に気をつけましょう。また、渋滞車列の最後尾に追いついたときには合図を出して、後続車に渋滞を知らせましょう。

雨天時



雨天時は、停止距離が延びるので、雨量が少なくても油断してはいけません。高速道路を走行する場合、とくに慎重な運転を心がけ、車間距離は晴天時の2倍程度拡げておくといいでしょう。



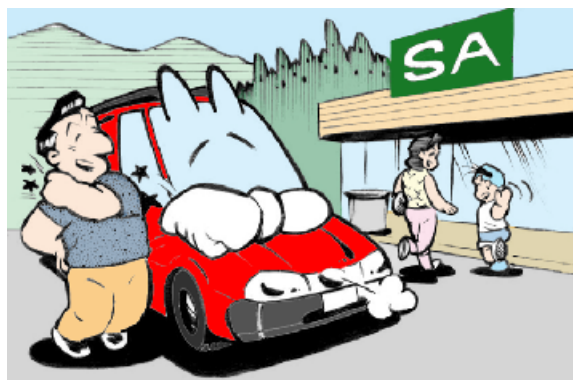
料金所 手前

強引なレーン変更をする運転者がいるので、とくに注意が必要です。また、ETCレーン通過時は前車がゲートを通じた後、速度を落として進入し、バーが開くのを確認してから通過しましょう。

ゆとりをもって安心ドライブを

長時間の連続運転は禁物です。疲れがたまりやすく、注意力の低下や居眠り運転に陥りやすいからです。たとえ疲れを感じていなくても、2時間に1回は15分程度の休憩を必ずとることを心がけましょう。

心身をリフレッシュして安心ドライブに努めることが事故防止につながります。



ご用命・ご相談は…

「やすらぎ」の設計が私たちの使命です。

保険システム株式会社
INSURANCE SYSTEM CO.,LTD

〒950-0087
新潟市中央区東大通2-4-1 新潟パナソニックビル6F
TEL 025-243-7374 FAX 025-243-0921
E-MAIL yasuragi@hokensystem.co.jp
URL <http://www.hokensystem.co.jp>

東京海上日動火災保険株式会社

企業営業開発部

〒100-8050 東京都千代田区丸の内1-2-1
TEL 03-5288-6589 FAX 03-5288-6590
URL <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

担当営業課